

2022 年度 戦略的創造研究推進事業 (ACT-X) 加速フェーズ研究課題

2022 年 4 月 1 日

戦略的創造研究推進事業 (ACT-X) において、2019 年度採択課題のうち加速フェーズ研究への移行を希望する課題について評価を行い、2022 年度加速フェーズ研究課題を次の通り決定しました。

研究領域：「数理・情報のフロンティア」

研究総括：河原林 健一（情報・システム研究機構 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授）

研究代表者	所属機関・部署	役職	課題名
磯沼 大	東京大学 大学院 工学系研究科	特任研究員	談話構造に基づく教師なし生成型要約
唐木田 亮	産業技術総合研究 所 人工知能研究 センター	主任研究員	大自由度ニューラルネットワークの学習に潜む幾何学的構造の解析と信頼性評価への展開
谷 林	理化学研究所 革 新知能統合研究セ ンター	研究員	Interpret-able Deep Learning Framework that Generates Pixel-wise Labels from Human Interaction (解釈可能なインタラクティブ深層学習)
笹谷 拓也	東京大学 大学院 工学系研究科	特任助教	マルチモード準静空洞共振器を用いた生体内における電力と情報の無線ネットワーク
鈴木 杏奈	東北大学 流体科 学研究所	准教授	地下資源開発に資する「流れ」と「構造」の逆解析
鈴木 彼方	富士通 (株) 富 士通研究所	研究員	モデルベース制御による理論保証を伴う深層学習ロボットの研究
早瀬 友裕	富士通 (株) 富 士通研究所	研究員	自由確率論による深層学習の研究
平木 剛史	筑波大学 図書館 情報メディア系	助教	情報投影と投影対象最適化による視触覚重畳提示
藤本 悠介	北九州市立大学 国際環境工学部	講師	周波数領域の事前知識を用いた動的システム推定
室屋 晃子	京都大学 数理解 析研究所	助教	階層的グラフの書き換え系での文脈等価性証明支援

(所属機関・役職は移行時点、五十音順に掲載)

研究領域：「生命と化学」

研究総括：袖岡 幹子（理化学研究所 開拓研究本部 主任研究員）

研究代表者	所属機関・部署	役職	課題名
相原 悠介	名古屋大学 大学院理学研究科	研究員	植物の特化代謝物による新規の翻訳後修飾機構
黒田 浩介	金沢大学 理工研究域	准教授	生命科学のためのジメチルスルホキシドを超える Universal solvent
小松 直貴	理化学研究所 脳神経科学研究センター	基礎科学特別研究員	mTORC1 活性動態の生物学的意義の解明
中尾 章人	京都大学 大学院工学研究科	助教	頸動脈小体における酸素センシング機構の解明
堀 千明	北海道大学 大学院地球環境科学院	准教授	炭素循環の先駆的分解者である腐朽菌の樹木分解機構の解明
森廣 邦彦	東京大学 大学院工学系研究科	助教	タンDEMリピート長鎖 DNA の細胞内化学構築
渡邊 千穂	広島大学 大学院統合生命科学研究科	助教	細胞モデルからみる疾病の時空間デザイン

（所属機関・役職は移行時点、五十音順に掲載）

<加速フェーズ移行評価について>

ACT-X では、研究領域毎に、研究者の申請に基づき加速フェーズへの移行評価を行います。「戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発及び先端的低炭素化開発を除く。）の実施に関する規則」に基づいて実施される課題事後評価に準ずる評価項目について評価を実施するとともに、「研究を引き続き支援することでより一層大きな成果になることが期待されるか」を評価し、加速フェーズへの移行課題を決定します。

以上